

木製浮き基礎とは？

住宅建築における基礎は、布基礎とベタ基礎が殆どで、それぞれにメリット、デメリットがあります。木材防腐加工メーカーの越井木材工業では、2025年の大阪万博で、丸太を使った基礎でパビリオンを作れないかと2019年から検討を始めたそうです。防腐木材の使用量が日本の10倍以上と言われるニュージーランドで開発され、丸太を筏組し、その上に束立ちで土台のレベルをとる工法です。使用実績も多数あるそうです。

浮き基礎というのは従来から超高層ビルの構造計画で検討されていたそうです。埋立地に建設された、神戸ポートアイランド・ショッピングセンターは半地下式の浮き基礎で1~3階がショッピングセンター、それより上が駐車場になっています。平成5年の「阪神・淡路大震災」でもほとんど被害が無かったそうです。その浮き基礎の考え方を防腐木材で構成する事で、①基礎工事の省力化と工期短縮、②解体時の廃棄費用の減少、③リユース・リサイクルで環境負荷の低減（CO2削減・炭素固定…SDGs）という効果が期待できるそうです。埋立地で短期間の使用となる万博の基礎工事には最適だろうと期待されています。また、木材のセルロースと防腐処理薬剤の成分からナトリウムイオン電池機能を付与することも検討しているそうです。木材利用の未来に期待したいですね。

低温空気循環乾燥機

既報308号（R4.3月）で紹介した「木の価値を高める奇跡の乾燥技術」と似たような方法です。43℃の低温で乾燥する事で、①乾燥コストが安くなる、②木材の色や香りなどの成分がそのまま残っており本来の特徴を残している、③乾燥庫が長持ちする、という事です。既報の乾燥法と違い、東京工業大学との共同特許を取得され、躯体の構造は公開されていますが、乾燥スケジュール等は明らかになっていません。樹種や大きさによる乾燥時間や、コストに関する情報は分りませんが、これまでの高温乾燥ありき、という風潮に対し、木材の本来の特徴を生かそうという動きでしょうか？ 今後も情報を集めて、検討したいと思います。

【情報】

電力保証制度の混乱！

新電力会社が撤退、倒産した場合には、大手電力会社は1.2倍程度の料金で電力を供給する義務があったが、資源価格の高騰で新電力会社の通常料金が高騰して、大手電力料金の方が割安となる逆転現象が起きている。電力自由化の競争を阻害する異常事態で、経産省の電力・ガス取引監視委員会が是正に乗り出すそうです。

【定休日】

6月は4.5.11,12,18,19,25,26日

7月は3,9,10,16,17,23,24,31日となります

宜しくお願いします



乾燥機メーカーのカタログ